

社会経済学2 (2018年度前期)

第1回: イントロダクション

担当者: 佐々木 啓明*



*E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp; URL: <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~sasaki/>

はじめに

■授業の概要と目的

「経済成長や景気循環をどのように説明するのか. これは, 経済学の永遠のテーマである. 本講義では, 新古典派・非新古典派を問わず, さまざま経済成長と景気循環の理論を提供する. 本講義の目的は, 各理論の特徴と差異を理解し, どれだけ現実を説明できるのかを自分なりに考えられるようになることである」

■到達目標

「本講義の目的は, 受講生が, 各経済理論の特徴と差異を理解し, どれだけ現実を説明できるのかを自分なりに考えられるようになることである」

基本的には講義概要(シラバス)どおりに進める。ただし、内容に変更あり。

評価: 期末試験で評価する。

→ 期末試験の内容は講義中に提示される練習問題に基づく。

講義ノート: Web ページ上にアップする。

供給制約のある動学モデル: 完全雇用・完全稼働

1. 新古典派成長モデル: ソロー・モデル (Solow, 1956). 定常状態への安定的な収束. 完全雇用を仮定. 伸縮的な生産関数を仮定. 技術進歩は外生的.
2. 内生的成長モデル: ローマー・モデル (Romer, 1990). 研究開発と経済成長の関係. 研究開発 (R&D) への投資により, 技術進歩が内生的に生じる.

供給制約のある動学モデル: 失業・完全稼働

3. 古典派成長モデル: 慣習的賃金および慣習的賃金シェア, マルクス偏向的技術変化. 実質賃金あるいは労働分配率を外生的に与えたモデルを閉じる. 完全雇用は仮定しない. 労働生産性が上昇し資本生産性が低下するとき, 分配率が一定ならば, 利潤率は必然的に低下し, それゆえ資本蓄積率は低下する.
4. グッドウィン・モデル: 循環的成長, 階級間の対立, 最低賃金政策の導入. 資本家と労働者の対抗関係により, 景気循環が内生的に発生する. 利潤分配率上昇 → 投資増大 → 雇用増大 → 労働者の交渉力増大 → 賃金上昇 → 利潤分配率低下 → 投資減少 → 雇用減少 → 労働者の交渉力低下 → 賃金低下 → 利潤分配率上昇...

有効需要の原理に基づく動学モデル: 失業・不完全稼働

5. ハロディアン・モデル: 有効需要の原理, 投資関数, 保証成長率, 自然成長率, 資本主義経済は本質的に不安定である.
6. カレツキアン・モデル: 儉約の逆説, 賃金主導型成長, 利潤主導型成長. 有効需要の原理, マークアップによる価格形成のモデル. 貯蓄率の上昇は成長率を低下させる. 実質賃金の増大は成長率を上昇させる.

多部門成長モデル: 部門間不均等成長

7. ボーモル・モデル: 2部門モデル, 不均等成長, 経済のサービス化がもたらすもの. 製造業とサービスの2部門モデル. 製造業部門の生産性上昇率はサービス部門のそれより高い. サービス需要は非弾力的. このとき, サービス部門の雇用シェアは上昇し, 経済成長率は低下していく.
8. パシネッティ・モデル: 多部門モデル. 完全雇用を維持することの難しさ. 有効需要の原理が働き, 労働のみが生産要素のモデル. 完全雇用条件が導出され, それを満たすのは現実的に困難であることが示される.